

## 1 生成 AI の取り組み概要

# 技術革新統括本部の生成 AI 活用と、NTT の生成 AI 「tsuzumi」 の商用化を見据えた取り組み

NTT DATA Technology Foresight で 6 年にわたり追いかけた巨大化する AI のトレンドは生成 AI としてビジネスで注目される革新的テクノロジーとなり、ビジネス文章の作成から専門家の支援、顧客対応、ソフトウェア開発などその活用が広がっている。NTT データグループの生成 AI ビジネスに貢献するため、技術革新統括本部では生成 AI を活用した「ソフトウェア開発の生産性向上」「顧客ビジネスへの貢献」「AI ガバナンスの徹底」さらに「tsuzumi の商用化」に関する取り組みを推進中である。

### 注目される生成 AI の活用と課題そして NTT データの取り組み方針

生成 AI、特に文章を生み出す文章生成 AI のビジネス活用が注目を集めている。ビジネス文章の作成や、既存のドキュメントをもとに質問に回答することで、専門家の生産性向上や顧客対応を実施することができる。さらに、ソフトウェア開発へその活用が広がっている。一方で AI がデータを生み出すという特徴か

ら、そのデータの著作権、真偽など課題が浮き彫りとなり、社会を巻き込んだ議論が巻き起こっている。

このような、生成 AI 活用への期待とその課題へ対応をするため、NTT データでは生成 AI の積極的な活用と AI ガバナンスの徹底の両輪でお客様と自社のバリューチェーン変革を進めることを大きな方針とする。NTT データグループ全体ではグローバルイノベーション本部の生成 AI 推進室 (Global GenerativeAI Office) がこの取り組みを推進して



株式会社 NTT データグループ  
技術革新統括本部 技術開発本部  
イノベーションセンター  
課長 河村 雅人 氏

おり、技術革新統括本部の各組織は技術カットでこれらの方針にアラインした取り組みを進めている。それぞれの取り組みについて紹介する。

### 技術革新統括本部の生成 AI 推進体制

技術カットでビジネス拡大への貢献、ソフトウェア開発の効率化、最新技術への対応、さらにガバナンスまで対応

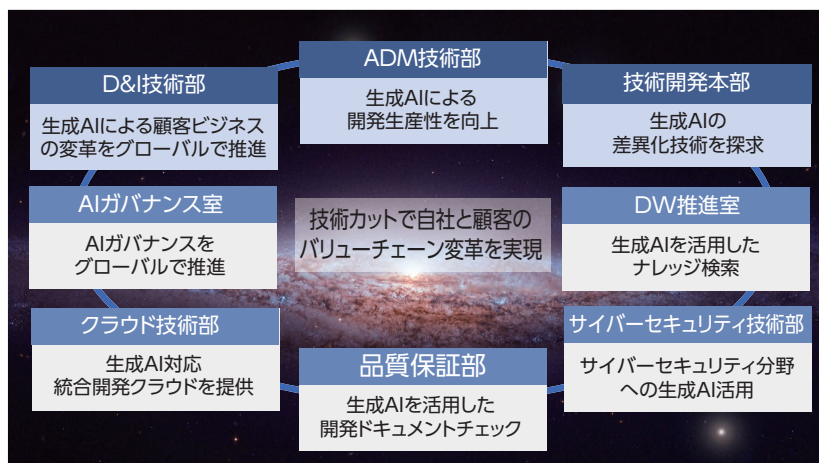


図1 技術革新統括本部における生成 AI の取り組み全体像

### 技術カットで進める技術革新統括本部の取り組み

「ADM 技術部」では、生成 AI によるソフトウェア開発生産性向上に取り組んでいる。生成 AI によるソフトウェアマイグレーションやテストだけでなく、要件定義や設計など上流工程への適用を進めている。またこのような生成 AI を利用した開発のプロセス整備も実施中である。

「D&I 技術部」では AI によるお客様ビジネスの変革を実現するた

め、データ分析基盤やコンサルティングメソッドの構築などデータの活用推進に注力している。生成 AI 領域では、お客様と並走したプロジェクト支援やユースケース・ノウハウ・商用化に必要な技術の集積、人材育成をグローバルで進めている。

「AI ガバナンス室」は、2023 年 4 月に設立され、グループ全体の AI ガバナンス体制を構築している。生成 AI に対しても、利用時のリスク、留意点をまとめたガイドラインを作成、全社に展開し、各プロジェクトが安心安全に生成 AI を利用したサービスを顧客へ提供できる体制を整えている。

「デジタルワークプレイス推進室」では NTT DATA 内のナレッジシェアの仕組みへ生成 AI を導入し検索効率を高める取り組み中だ。

「品質保証部」では生成 AI による開発ドキュメントのリスクチェックの効率化について研究開発を実施する。

「サイバーセキュリティ技術部」は生成 AI について、サイバーセキュリティインシデントの検知・対応分野への利用を中心にグローバルで様々な検証を進めている。将来的に当社のナレッジを集約した AI を用いた、プロアクティブなインシデントレスポンスを目指す。

「クラウド技術部」は社内開発環境である統合開発クラウド上へ生成 AI の開発を実施するための GPU 基盤の構築と運用ノウハウの獲得を推進中である。

「技術開発本部」のイノベーションセンタでは、NTT 研究所が開発した文章生成 AI である「tsuzumi」を生成 AI ビジネスにおける当社の強みとなる差別化技術として、その

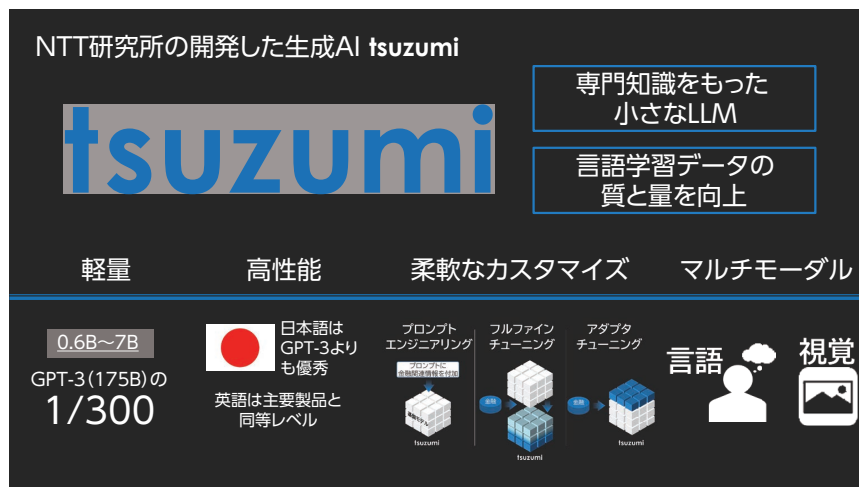


図 2 NTT 版 LLM 「tsuzumi」

商用化に向けた取り組みを進めている。この取り組みについて紹介する。

### NTT 版 LLM 「tsuzumi」の特徴と商用利用への課題

「tsuzumi」は、ChatGPT などハイパースケーラーが提供する文章生成 AI に比べてパラメータが少ない軽量な生成 AI として開発された。NTT 研究所が得意とする自然言語処理のノウハウを活用し高品質なデータで学習を行い、高い日本語性能と柔軟なカスタマイズ性、言語だけでなく図表を読解できるマルチモーダルが特徴だ。

これらの特徴を活かし、固有の環境で運用でき、ビジネスドメインと業務に特化した生成 AI を開発、お客様ニーズに合わせて提供しやすい生成 AI の実現を目指している。

これにむけたカスタマイズ方法やシステムへの組み込み、運用のノウハウ、さらに適用可能なユースケースの洗い出しが課題である。

### 「tsuzumi」の商用化を見据えた取り組み

「tsuzumi」の商用化に向けた技術

検証では、その活用のノウハウを蓄積し、さらに商用展開に向けたユースケースの検証とグローバルを含む展開スキームの整備を実施する。

技術検証では当社顧客を想定したユースケースをシナリオとして、複数あるチューニング方法の使い分けや勘所のノウハウ化を進めている。

またこの技術検証を通して「tsuzumi」のチューニングや活用を推進できる人材の育成を実施し、デリバリー体制の構築を進める。

そして国内外のグループ会社が持つアセットへ組み込み、早期にお客様へ提供する準備を実施中である。

このような取り組みを海外グループ会社へも広げていき、グローバルでの「tsuzumi」の商用展開スキーム構築を開始する。

これらの取り組みを通して、2024 年の早い段階で、まずは日本国内のお客様へ活用いただけるよう PoC の提供をスタートしたい。また、北米など英語圏での「tsuzumi」の活用を皮切りに、将来的にはグローバルでの商用化を実現していく。